

大学院美術研究科 博士前期課程 教員プロフィール

【美術専攻】

■洋画研究領域

大森 悟(おおもり さとる)

1994 年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業、1999 年同大学大学院美術研究科博士課程修了、美術博士。福井大学教育地域科学部生涯学習講座助教授などを経て現在に至る。個展、レジデンス、展覧会企画、美術展の審査員などの活動を行っている。

鴻崎正武(こうざき まさたけ)

1999 年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業、2005 年同大学大学院美術研究科博士課程修了、美術博士。東北芸術工科大学芸術学部美術科洋画コース准教授などを経て現在に至る。個展、絵画、立体、コミッションアート、アーティスト・コレクティブなど国内外のギャラリーや美術館、芸術祭で発表している。

富安由真(とみやす ゆま)

2009 年ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ(ファインアート科)卒業、2012 年同大学大学院修了、2017 年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻(油画)修了、美術博士。インスタレーションを中心に、絵画やサウンド、映像などメディアを横断しながら制作。国内外の美術館や国際芸術祭などで発表。

堀込幸枝(ほりごめ さちえ)

1981 年宮城県生まれ。女子美術大学大学院美術研究科美術専攻修士課程修了。絵画教室講師、2014 年より女子美術大学洋画非常勤講師。2008 年よりギャラリー椿にて隔年で個展開催。その他国内外のアートフェアなどに出品。

福土朋子(ふくし ともち)

1990 年女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻(油絵)卒業、2000 年ペンシルヴァニア・アカデミー・オブ・ザ・ファインアーツ大学院修了、2005 年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻油画修了、美術博士。絵画にマンガの文法や構造を取り入れた作品を発表。個展、パブリックアート制作、美術展審査員などの活動を行っている。

山内 隆(やまうち たかし)

1991 年東京藝術大学絵画科油画専攻卒業、1993 年同大学大学院壁画専攻修了、1996 年同大学油画専攻博士課程満期退学、2017 年ウィーン応用美術大学で在外研修。立体、ドローイングを中心に個展、グループ展等で発表。国内外の祈りや奉拝の場を巡りフィールドワークを行う。

■日本画研究領域

稲田亜紀子(いなだ あきこ)

1995 年女子美術大学芸術学部絵画科日本画専攻卒業、1997 年女子美術大学大学院美術研究科日本画研究領域修士課程修了。人物をモチーフとした制作を中心に、個展・グループ展にて発表。現在、日展会員。

岸野 香(きしの かおり)

1989 年女子美術大学芸術学部絵画科日本画専攻卒業、1992 年東京藝術大学大学院美術研究科保存修復技術日本画修了。東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学助手、文星芸術大学准教授などを経て、現在に至る。日本美術院同人。個展・グループ展等で作品を発表。

重政周平(しげまさ しゅうへい)

2017 年 東京藝術大学大学院博士後期課程絵画専攻日本画研究領域修了。東京藝術大学絵画科日本画研究室教育研究助手、女子美術大学日本画専攻非常勤講師を経て、現在に至る。一般社団法人創画会正会員。個展・グループ展等で作品を発表。

宮島弘道(みやじま ひろみち)

1992 年武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒業、1994 年同大学大学院美術専攻日本画コース修了。自然物に心象を投影させ、日本画と岩絵具の新たな可能性を追求。個展・グループ展等に多数出品。現在、創画会会員。

■版画研究領域

阿部大介(あべ だいすけ)

2002 年京都精華大学芸術学部造形学科版画卒業、2004 年愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了。様々な物質の表面を版材に使った技法を研究。2015 年「皮膚感覚」阿部大介展(美濃加茂市民ミュージアム)など展覧会多数。

清水美三子(しみず みさこ)

1988 年女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻(版画)卒業。リトグラフの制作および描画材料を研究。国内外におけるグループ展に多数出品。団体展、個展を中心に作品を発表している。日本版画協会、春陽会会員。

■工芸研究領域

荒 姿寿(あら しず)

2012 年女子美術大学大学院美術研究科美術専攻工芸研究領域(染)修了。スクリーン捺染や独自技法による「滲み」をテーマに作品を制作し発表している。国内外で伝承されてきた染色技術を調査研究し、本学の染織文化資源の技法の解明や、先端工学技術と協働した超微分天然岩絵具の応用創作研究に取り組んでいる。

大崎綾子(おおさき あやこ)

2007 年女子美術大学大学院美術研究科美術専攻工芸領域修了、2016 年筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻博士後期課程修了、芸術学博士。失われていく刺繍技法「竹屋町繡」を研究し制作を行っている。保存修復分野では被災染織文化財の安定化処理を含む本格修理に取り組んでいる。

加藤尚子(かとう なおこ)

1996 年女子美術大学芸術学部工芸科卒業。2001 年より女子美術大学非常勤講師として勤務。現在に至る。キルンキャスト(ガラス鑄造)技法による作品制作を行っている。国内外で作品を発表。その他、企業やホテルをはじめとする建築空間に作品を設置している。

工藤聖美(くどう きよみ)

1987 年女子美術大学芸術学部産業デザイン科工芸専攻卒業、国画会会員。単一の素材＝ウールのみを原材料にした凹凸のある布の制作研究。素材の多様性に加え、糸の撚糸の強弱と織物組織との組み合わせで様々な陰影や文様を生み出す要素を用いて、布表面における構築的で立体感ある表現を探る。

■立体芸術研究領域

帆足枝里子(ほあし えりこ)

2016 年女子美術大学大学院美術研究科博士後期課程立体芸術研究分野修了。博士論文は「造形作品の要素－土で作る表層とその表面に現れる亀裂などの形状に関する一考察－」。研究領域は彫塑及び、土を素材として用いた彫刻。企業やホテルをはじめとする建築空間に作品を設置している。

山本桂輔(やまもと けいすけ)

東京藝術大学大学院彫刻専攻修了。東北芸術工科大学専任講師を経て現職。「作る、想像する、思考する」事への関心を軸に、彫刻や絵画を制作。研究領域は木彫表現及び、近・現代美術。主な展覧会に「ウィンター・ガーデン:日本現代美術におけるマイクロポップ的想像力の展開」(2009 年原美術館)、「ノスタルジー&ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」(2014 年国立国際美術館)など。小山登美夫ギャラリーを拠点に国内外で個展・グループ展多数。